

~.....*~*

▼△気象情報に注意して早めに防災対策・避難行動を△▼

~.....*~*



7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、崖崩れや土石流、川の氾濫などが発生しやすくなり、毎年のように人々の生命が脅かされるような自然災害が発生しています。

近年にとくに顕著な災害を起こしたもののだけでも、

「平成29年（2017年）7月九州北部豪雨」（死者42名、住家被害3,864棟）

「平成30年（2018年）7月豪雨」（死者263名、住家被害51,110棟）

「令和元年（2019年）房総半島台風」（死者9名、住家被害93,372棟）

「令和元年（2019年）東日本台風」（死者105名、住家被害105,699棟）

「令和2年（2020年）7月豪雨」（死者84名、住家被害16,548棟）

など、風水害がいくつも発生しています。

■「防災気象情報」を活用し、大雨や台風への備えを■

災害から命を守るためには、災害に対する備えをし、危険を感じたら早めに避難するなど、自らの命を守るための行動を起こすことが重要です。その際に役立つのが、気象庁が発表している「防災気象情報」です。

(1) 警報・注意報

気象庁ではまず「早期注意情報」や「気象情報」を発表し、

その後の危険度の高まりに応じて

「注意報」「警報」「特別警報」を段階的に発表しています。

●特別警報：大雨（土砂災害、浸水害）、暴風、波浪、高潮

◎警報：大雨（土砂災害、浸水害）、洪水、暴風、波浪、高潮

○注意報：大雨、洪水、強風、波浪、高潮、雷

市区町村は、警報を受け、ハザードマップなどに基づく危険な区域の住民に対して、高齢者等避難、避難指示などの発令を検討します。

(2) 土砂災害警戒情報

雨が降り出したら、大雨や洪水の「警報」、さらに「土砂災害警戒情報」にも注意しましょう。この「土砂災害警戒情報」は、「警報」の発表後、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに都道府県と気象庁が共同で発表しており、命を奪うような土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であることを伝える情報です。

(3) キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）

気象庁では、地図上のどこで危険度が高まっているかがリアルタイムで色分けされる「キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）」も提供しています。

パソコンやスマートフォンから、気象庁のウェブサイトの

「キキクル（危険度分布）」 <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>で確認できます。

キキクルで「黒」が表示された場合、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況です。

土砂災害や洪水により命に危険が及ぶ場所では、早めの避難を心がけ、遅くとも「紫」が出現した時点で、速やかに避難開始を判断することが重要です。

自治体から高齢者等避難や避難指示が発令された場合には、キキクルの危険度に関わらず、速やかに避難行動をとってください。

■日頃からハザードマップで危険箇所をチェック！■

大雨や台風の際には、海岸や増水した川、崖や沢など、危険な場所には近づかないようにしましょう。避

難するときも安全なルートを通して移動できるよう、日頃から、市区町村が作成している「ハザードマップ」を活用して、危険箇所を確認しておきましょう。

ハザードマップ (<http://disaportal.gsi.go.jp/>)

は、過去に発生した災害の被害状況をもとに、地震や津波、台風や集中豪雨による洪水、崖崩れや土石流、火山の噴火など、大規模自然災害における被害発生状況を予測し、地図に書き込んだものです。

河川が氾濫した場合に浸水が予想される地域、土砂災害の発生する危険性のある地区などが示されていますので、早めに避難行動をとったり、危険を回避して移動したりすることができます。

■雨や風が強くなる前に、家の外と中の備えの確認を■

雨が降ったり、風が強くなったりする前に、窓や雨戸はしっかりと閉め、必要に応じて補強する、側溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく、風で飛ばされそうな庭木やプロパンガスなどは飛ばないように固定したり、家の中へしまったりする、自動車のガソリンを満タンにしておくなど、家の外の備えをしておきましょう。雨や風が強くなってからでは、外での作業は危険です。

また、スマートフォンやパソコンは充電し、モバイルバッテリーを用意しておきましょう。

警報、注意報が発表されているときや悪天候のときは、交通機関がストップしてしまうおそれがありますので外出は控え、外出している人は、天気が荒れる前に、早めに帰宅するようにしましょう。

また、既に災害が発生していたり、暴風や大雨等により避難場所までの移動がかえって命に危険を及ぼしかねない状況では、近隣の堅牢な建物などへ緊急的に移動したり、屋外に出ることさえ危険な場合は自宅の2階以上のがけや沢からできるだけ離れた部屋等に移動するなど、直ちに身の安全を確保するようにしてください。

<お役立ち関連リンク>

・気象庁「防災情報」

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>

・国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

<http://disaportal.gsi.go.jp/>

・内閣府「風水害対策」

<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/index.html>

・消防庁「集中豪雨への備え」

<https://www.fdma.go.jp/publication/database/database006.html>

以上



~.....*~*

▼△電気代を節約！手軽にできる節電方法△▼

~.....*~*

電気代も高いし冷房はギリギリまで我慢しようか...

エアコンを使うのを我慢する行為は非常に危険です！
熱中症のリスクが高まり、熱中症になると最悪の場合、死亡することもあるのです。

そこで、生活の中でなるべく快適さを維持したまま、ちょっとした工夫でできる節電方法をご紹介します。
夏の19時頃の電力消費量は、「エアコン 38.3%」「冷蔵庫 12.0%」「照明 14.9%」の3種類で約65%を占めていますので（資源エネルギー庁調べ）、節電の際は、これらをメインに考えると効果的です。

■上手なエアコンの使い方

- ・夏場の熱気の多くは窓から室内に入り込みます。カーテンは、日差しを遮るだけでなく、屋外からの熱気も防ぎます。外出時にもカーテンを閉め、室内の温度上昇を少しでも抑えましょう。厚手のカーテンや遮熱カーテンだとより効果的です。
- ・エアコンのフィルターは、2週間に1度をめどに掃除をしましょう。
- ・エアコンの室外機の吹出口に物を置くと、冷房の効果が下がりますので注意してください。また、室外機に直射日光が当たると、冷房効果が低下します。できれば植木やすだれなどで日陰を作るようにしましょう。
- ・「温度むら」ができていると、エアコンは部屋の上の温かい空気を吸い込んで、まだ部屋が冷えていないと勘違いして部屋を冷やしすぎてしまいます。そこで、扇風機やサーキュレーターの風を天井へ向けて、空気を循環させましょう。
- ・外出から帰ってきて、部屋の中が外よりも暑いと感じたときは、エアコンを入れる前に、まず、窓を開けて部屋の換気を行いましょう。

■上手な冷蔵庫の使い方

- ・扉の開閉の回数をできるだけ少なくすると節電につながります。また、定温度はできるだけ夏は「中」、冬は「弱」に設定しましょう。
- ・できるだけ庫中を整理しましょう。ずっと前に食べ残した食品が奥で眠っていませんか。また、常温で保存できるものを入れたりしていませんか。缶詰、びん詰や調味料は、未開封なら冷蔵庫に入れないようにしましょう。
- ・熱いものをそのまま冷蔵庫に入れていませんか？ 庫内の温度が上がり、余分なエネルギーが消費されてしまいます。ほかの食品にも悪影響を及ぼすため、熱いものは冷ましてから入れましょう。

■上手な照明の使い方

- ・ランプやかさが汚れると、明るさは極端に低下します。こまめにお手入れしましょう。
- ・必要のない明りはこまめに消しましょう。長時間部屋を空けるときは消した方が経済的です。ただし、蛍光灯ランプの場合は、極端に頻繁に点滅させるとランプの寿命が縮むので注意しましょう。
- ・白熱電球から電球形蛍光灯ランプや電球形LEDランプに取り替えれば省エネになり、節電ができます。

◎～ご参考～2020年、2010年の製品の比較◎

●エアコン

10年前と比べると約17%の省エネで、年間の電気代で約4,509円もおトクです。

●冷蔵庫

10年前と比べると約40～47%の省エネで、約5,319円～6,939円もおトクです。

●照明器具

電球形LEDランプは一般電球と比べると約86%の省エネで、約2,511円もおトクです。

●テレビ

2019年の製品は2010年のものと比べると約42%の省エネで、約1,620円おトクです。

（出典:資源エネルギー庁「機器の買換で省エネ節約」）